

遠藤寛子：The 9th International Phycological Congress 2009 大会参加記

2009年8月2日から8日にかけて、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで第9回国際藻類学会議が行われました。開会式は南雲先生、田中先生らによる演奏「さくらさくら」から始まりました。続いて役員の方々のご挨拶、開会の言葉があり、藻類全分類群のビデオ上映が行われました。和太鼓の音に合わせて大画面で見る、微細藻はその精巧な動きや構造に、大型藻は海の中で漂い光に反射して輝く映像に圧倒されました。

私は今回が初めての国際学会の参加、そしてポスター発表を行うことになっていました。発表の本番は8月4日です。それ以外では発表を聞いたり、ポスターやカサノリ展示、海藻おしぼを眺めたり、エクスカッションで鎌倉観光をしていました。

開会式の翌日、3日からは口頭発表が行われました。最初の講演は北海道大学の本村先生でした。褐藻の受精、成長、細胞分裂についてのご講演は、私自身、細胞分裂の研究をしていることもあり、非常に興味深いものでした。さらに本村先生の英語も聞き取りやすかったため、この後聞く発表も大丈夫か?と安心してしまいました。しかし参加者には様々な国籍の方がおり、彼らの英語が流暢で早口であったり、訛りがひどいときは、私には内容を聞き取ることが難しいようでした。そんな中、口頭発表で印象に残ったものは、もう1つの一次共生であるポーリネラについて、クリプト藻・クロララクニオン藻のもつヌクレオモルフゲノムに関して、またパルマ藻は珪藻の姉妹群に近縁だった、などの発表でした。論文になる前のデータを見ることができるとはお得な気分でした。

さて、私にとっての本番当日。私はクロララクニオン藻の核分裂に関して発表しました。先輩のアドバイスにより説明の原稿を用意し、少々練習をしておきました。とりあえずはポスターの電顕写真を見てもらえばいいというように作りましたので、「説明して」と言われた時以外は、質問に答えるのみでした。Copenhagen大学のMoestrup先生が私のポスターを見ながら

ずっと「Funny, funny」とつぶやいていたり、発表の途中、質問されたことの英語が理解できず、たまたま発表を見に来てくださっていた方々に助けをいただくこともありました。論文を読んだことのある著名な先生、学会中に知り合った外国の研究者、学生の方、全く知らない方など、思っていたより多くの方々が見に来てくださり、内心驚いていました。大きな失敗もなく、何とか人の助けを借りつつも発表を無事に終えることができ、本当に良かったと思っています。見に来てくださった方々ありがとうございました。おかげで自分のポスター発表が終わると安心して気が抜けてしまいました。

国際学会のバンケットは、国内学会の懇親会とは異なりホテルで格別に行われるそうです。今回も同様で、京王プラザホテルで行われました。なぜか中華料理でしたが。宴会もたけなわとなると、突如お国ごとに出し物が始まりました。これは恒例なのでしょうか?スペインの方は用意周到で楽器をもっておられ、韓国の方はいい声で熱唱されていました。日本からは国立環境研究所の出村さんが「月が〜でた〜」と歌い、後ろで高知大学の奥田先生と筑波大学の山口さんが盆踊り(?)をしていました。バンケットの最後は日本人が「蛍の光」を歌い、閉会となりました。

今回の学会は日本で行了されたこともあり、日本人も多く、日本語が通じる場面も多く、国際学会なのに国内学会のような感覚がありました。それでも、アメリカの研究者と先輩の3人で偶然にも昼食をとることになり、「さっきの発表についてどう思う?」なんて聞かれてしまった時には、英語での回答に苦労したため、改めて、やはり国際学会だなと感じていました。

最後になりましたが、今大会を運営してくださった大会長の堀口先生をはじめ、諸先生方、大会スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

(筑波大学・大学院生命環境科学研究科)



基調講演される本村先生 (撮影: 長里千香子)



美声を披露する韓国からの参加者 (撮影: 本村泰三)